

船舶事故調査報告書

平成30年4月25日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 佐藤 雄二（部会長）
 委員 田村 兼吉
 委員 岡本 満喜子

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成29年4月17日 04時17分ごろ
発生場所	静岡県静岡市清水港三保防波堤 清水港外防波堤南灯台から真方位142°680m付近 （概位 北緯35°01.4′ 東経138°31.4′）
事故の概要	貨物船大晴は、出航中、防波堤に衝突した。 大晴は、球状船首部の亀裂を伴う凹損等を生じた。
事故調査の経過	平成29年4月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。 なお、後日、1人の地方事故調査官を新たに指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 大晴、499トン 141717、御前崎海運株式会社、個人所有 69.71m×13.20m×7.35m、鋼 ディーゼル機関、1,471kW、平成24年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 67歳 五級海技士（航海） 免許年月日 昭和45年7月24日 免状交付年月日 平成28年4月12日 免状有効期間満了日 平成33年6月26日
死傷者等	なし
損傷	本船 球状船首部に亀裂を伴う凹損、船尾部右舷側に擦過傷 防波堤 上部コンクリート及びケーソンの一部に欠損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏 日出時刻：05時21分ごろ
事故の経過	本船は、船長ほか4人が乗り組み、残土約1,800tを積載し、平成29年4月17日04時10分ごろ、清水港袖師第1ふ頭岸壁を出航した。 本船は、船長が単独で操船に当たり、操舵スタンドの前に立ち、目視で見張りをを行い、遠隔操縦ダイヤルで針路を調整しながら、清水港内の航路に向け、約9ノットの対地速力で南東進した。

	<p>本船は、04時13分ごろ、船長が、左舷前方約300m及び約800mのところにそれぞれ漁船が漂泊しているのを認めた。</p> <p>本船は、船長が、三保防波堤を右舷側に見る針路で、2隻の漁船を左舷側に見て避けることとし、2隻の漁船の動静に注意を向けながら東進中、04時16分ごろ、同防波堤を視認し、同防波堤に接近していることに気付き、主機を後進にかけたものの、04時17分ごろ、同防波堤に衝突した。</p> <p>本船は、船長が、本事故の発生を海上保安庁へ通報した後、清水港内に錨泊して海上保安庁による調査を受け、出航した岸壁に戻った。</p> <p>(付図1 事故発生経過概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>船長は、清水港の入出港経験が約20年あった。</p> <p>船長は、2隻の漁船の灯火及び清水港三保防波堤北灯台の灯光が良く見えていたと本事故後に思った。</p> <p>船長は、過去にも清水港内の航路付近に漁船がいた際、三保防波堤を右舷側に見る針路で、漁船を左舷側に見て出航した経験があったが、本事故当時は2隻の漁船に注意を向け、同防波堤への接近に気付くのが遅れたと本事故後に思った。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、出航中、船長が、航路付近で漂泊する2隻の漁船を避ける際、その動静に注意を向け、船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、三保防波堤への接近に気付くのが遅れ、機関を後進にかけたものの、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、出航中、船長が、航路付近で漂泊する2隻の漁船を避ける際、その動静に注意を向け、船首方の見張りを適切に行っていなかったため、三保防波堤への接近に気付くのが遅れ、機関を後進にかけたものの、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶を避ける際は、対象となる船舶のいる方向だけでなく、船首方も含め、常時周囲の見張りを行うこと。 ・航行経験のある海域であっても、夜間に航行する場合は、レーダー等の航海計器を使用し、自船の位置を適切に把握すること。

付図1 事故発生経過概略図

